シェイクスピア星物語

香西洋樹 著

1996年7月発行

講談社，215ページ，1,800円

読み物

お薦め度
☆☆☆☆★

香西洋樹，1995～1996，「天文屋のこだわりシェークスピア」，科学朝日，第55巻（1号）～第56巻（3号），各号の48ページ，に加筆したもの．著者は『父の蔵書…の中に坪内逍遥訳「シェイクスピア全集」があり…天文に関わる言葉が目にとまることが多く…「いつかきちんと調べてみたい」と思い続けてン十年．国立天文台を定年退職したのを機会に…天体の現象の出てくる台詞をひとつひとつ調べ，あてはまる実際の現象をパソコンで計算してみたりして得たデータをA4サイズの紙にびっしりとうち出し…厚さが数センチにも』なったそうで，本書ではシェイクスピア作品の約半数をとりあげている．

著者の独断に満ちた「私論シェイクスピア」とのことだが，これだけ自由にシェイクスピアを論じるのもまた楽しからずやで，読者それぞれに私論を展開する喜びを示唆する本だ．シェイクスピアの作品については様ざまな観点から詳しい研究が行なわれているわけだが，この「天文屋のこだわりシェイクスピア」には専門家が今まで見落としていたことも含まれているのではなかろうか．

ロンドンあたりの野外劇場で実際の星空を指さしながら演じられているという想定で，株式会社アスキー発行「StellaNavigator ver.2.0 for Windows」で作成した当時の星空の図が多数掲載されている．例えば，喜劇「夏の夜の夢」(A Midsummer Night's Dream)の舞台はギリシアのアテネだが，シェイクスピアは生涯イングランドから出ていないと思われるので，イングランドの夜空を描いて月や星座が台詞と合う日を探し，上演の日づけを1595年8月11日と推定している．この「天文学者としての分析」はMidsummer Night［6月23日（ユリウス暦）＝7月3日（グレゴリオ暦）］と39日ずれているが，シェイクスピア専門家の意見はどうであろうか．（イギリスの暦がユリウス暦からグレゴリオ暦にかわったのは，この本にも述べられているとおり，1752年のことだが，この本での日づけはすべてグレゴリオ暦によっているようだ．）

天体現象を手がかりに創作時期の見当をつけることもやっていて，例えば「ハムレット」では，第1幕第1場のバーナードーの台詞「北極星の西に見える，ほら，あの星」は1596年にチコ・ブラーヘが観測した馭者座の彗星だったのではないか，「ハムレット」が創作されたとされている1600年より前だが，記録に残っていない初演（1596年初夏）があったかもしれない，と想像の翼を伸ばす．

日月食はいろいろな劇に登場するが，オッポルツェルの「食宝典」を参照して，例えば，「リア王」第1幕第2場グロスターの台詞にある「近ごろ続いてあらわれた日月食」は，1605年9月27日の部分月食と、1605年10月12日の皆既日食であろうと推測している．

ほかにも，流星雨，惑星，超新星，北極星，歳差，星明かり，偽作か否かの判定，天文学者など話題は豊富である．

平山智啓（国立天文台）